



## トルコにおけるテロ動向(第 2 部)

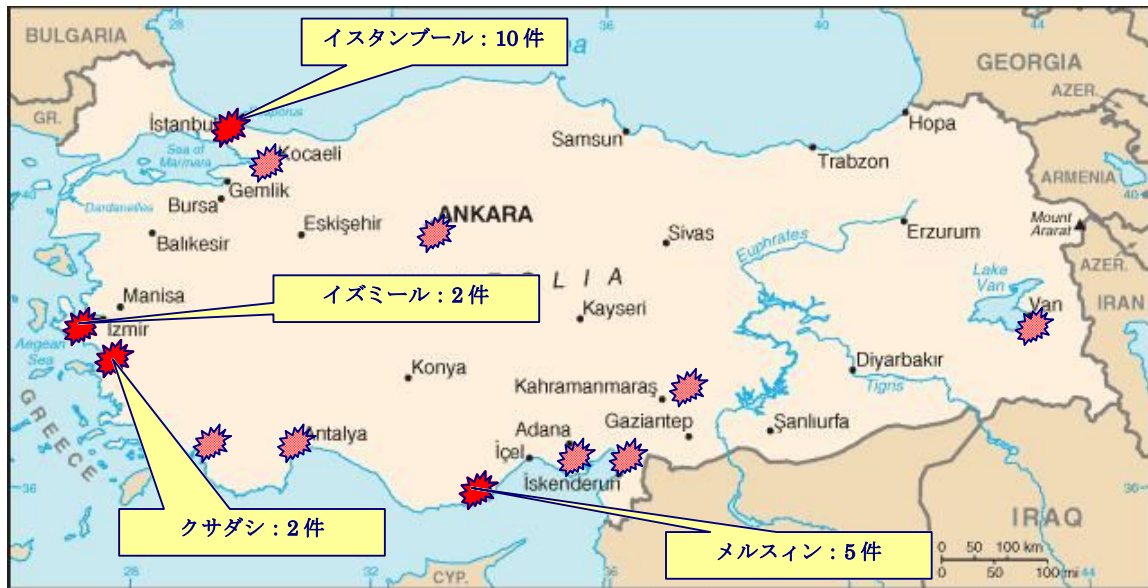
第 1 部に続き、本号（第 2 部）では、トルコにおける最近のテロ動向・今後の展開・企業としての対策等についてまとめている。なお、本編は、弊社が契約企業に対し不定期で情報提供している「海外安全レポート」として 2006 年 9 月 11 日作成「トルコにおけるテロ動向」から抜粋したものである。（「海外安全レポート」は弊社の「海外危機管理情報提供サービス」に基づき、不定期に提供しているもので、2005 年の実績で 58 編のレポートを提供した）

### 1. トルコにおける最近のテロ動向

別添 1 は 2003 年以降にトルコで発生した主なテロ事件をまとめたものである。この別添 1 から、トルコで今年（2006 年）に入り、主要都市及び観光地等を中心に爆弾テロが頻発していることが分かる。また、最近のトルコにおけるテロにおいては、下記のような点が特徴として挙げられる。

- ①トルコ国内で最近発生したテロ事件の多くで TAK が犯行声明を発している。TAK が PKK の分派又は PKK のテロにおける犯行声明上の名前であるとも言われていることから、PKK が停戦を破棄した 2003 年 9 月 1 日以降、PKK が関与していると思われるテロが急激に増加していると言える。（特に、2006 年に発生したテロのほとんどが TAK によるテロと考えられる）
- ②TAK（PKK 関与の可能性大）による最近のテロにおいては、当初は政府機関等が中心であったが、2006 年以降は観光地におけるテロを中心に行っている。また、地域的にはイスタンブールや西部及び南部の観光地・リゾート地が中心となっていることが特徴として挙げられる。（図表 2 記は TAK が 2004 年 7 月以降トルコ国内で行ったテロ事件（計 27 件）の発生場所を示した地図である。赤で示された場所では 2 回以上発生していることを示しており、薄い赤で示された場所では 1 回発生していることを示している）

【図表 2：TAK によるテロ事件の発生場所・件数】



【地図出典：米国中央情報局（CIA）】

③最近のテロの標的としては、下記のようなものに集中している。

- トルコ政府機関関連施設
- 米軍関連施設
- 欧米の総領事館等の公館
- 米系企業（UPS 等）
- マクドナルド等の米系ファーストフード店
- 欧米の金融機関（特に英系の HSBC）
- ユダヤ教・キリスト教関連施設
- 米系ホテル
- 与党 AKP 関連施設
- その他、欧米人等の観光客が多く集まる観光地（喫茶店・レストラン・観光用小型バス等）

④テロの手段

- イスタンブール・メルスィン (Mersin)・クサダシ (Kusadasi)・イズミール (İzmir) の他、アンタルヤ・マルマリス等、欧米人が多く集まる観光地でテロが頻発している。
- 鉄道・バス・空港等の公共交通機関及び関連施設を標的としたテロも頻発している。特に、バスにおいては自爆テロ等が多い。
- 爆発物としては音響爆弾・C4 等の高度な爆発物が使用されている。
- 爆弾テロにおいては、1 回の小規模な爆弾で人を集め、2 回目の爆弾を爆発されるような手法も使用されている。

⑤トルコにおいて特徴的な点として女性による自爆テロが多いという点が挙げられる。世界的にみても女性による自爆テロを行うテロ組織は、下記のような組織に限られるが、トルコには女性による自爆テロを行う組織が少なくとも 2 つ（PKK 及び DHKP-C）ある。更に、マルクス・レーニン主義を標榜する極左テロ組織である革命人民解放党戦線（DHKP-C）でも女性による自爆テロを行っているが、世界的に見て極左テロ組織としては極めて希有である。

- シリア社会民族主義党 (Syrian Social Nationalist Party：1985 年 4 月 9 日に南レバノンにおいて世界で初めて女性による自爆テロ事件が発生しイスラエル兵 2 人が死亡)
- ロシア国内のチェチェン系テロ組織
- スリランカのタミール・イーラム解放の虎 (LTTE：Liberation Tigers of Tamil Eelam)
- パレスチナ系テロ組織（下記）
  - ・ アル・アクサ殉教者旅団 (Al-Aqsa Martyrs Brigade)

- パレスチナ・イスラム・ジハード (PIJ : Palestinian Islamic Jihad)
- ハマス (イスラム抵抗運動 : HAMAS : Islamic Resistance Movement)
- イラクの反米テロ組織
- クルド労働者党 (PKK)
- 革命人民解放党戦線 (DHKP-C)

## 2. 今後の展開

- ①最近のトルコのテロ動向から見た場合、テロ実行能力の高い組織と主な標的は以下の通りである。
- PKK (トルコ国内の政府関連施設・観光地での爆弾テロ及びドイツ等海外での爆弾テロ・その他自爆テロ (女性自爆犯の場合もあり) 等の大規模テロ)
  - DHKP-C (トルコ都市部での治安当局者の暗殺・政府及び財閥系企業の施設の爆破テロ・その他米国権益も標的・自爆テロ (女性自爆犯の場合もあり) 等の大規模テロ)
  - TAK (イスタンブール・西部及び南部の観光地・リゾート地等での爆弾テロ (自爆テロ等の大規模テロは例がない))
  - トルコ・ヒズボッラー (都市部での自爆テロ (女性自爆犯は例がない) 等の大規模テロ)
- ②上記のうち、今後 PKK 及び TAK 等のクルド系テロ組織によるテロが都市部・西部及び南部の観光地・リゾート地において頻発する可能性が高いと言える。その理由は以下の通りである。
- TAK はこれまでの犯行声明の中で「トルコは安全な国ではない。外国人の観光客は来るべきでない」と再三述べており、最近では「我々は以前にもトルコが安全な国家ではないことを警告したはずである」とも述べている。また、現在観光産業がトルコ経済にとって大きな役割を果たしていることから、今後も観光地等でのテロが発生する可能性が高い。
  - PKK 及び TAK は犯行声明の中で 1999 年に逮捕され、その後終身刑の判決を受けて服役中の PKK のオジャラン議長の服役に抗議する旨、再三発しているが、同議長の釈放の可能性は極めて低い。
  - トルコ南東部では 2006 年に入ってから、PKK によると見られるトルコ兵士の殺害が相次いだことから、トルコ軍も掃討作戦を強化しており緊張が高まっている。特に、最近においては、トルコ政府軍はイスラエル軍によるレバノン攻撃に触発される形で、イラク北部のクルド自治区に置かれた PKK 拠点への掃討作戦と称した空爆に踏み切っており、PKK による反撃が懸念されている。そのため、今後「テロ事件の発生→掃討作戦の強化→報復テロ事件の発生→報復掃討作戦の実施」という連鎖の可能性も高い。
- ③DHKP-C 及びトルコ・ヒズボッラーによるテロも今後下記のような理由から、継続される可能性が高いと言える。
- DHKP-C は現在でも高いテロ実行能力を有し、更にはイスラム原理主義系の現政権の EU 加盟等の現実路線に反発を強めており、今後現政権に反発する形でテロが継続される可能性が高いと言える。(なお、同組織は 2005 年 7 月 1 日に、アンカラの法務省ビルでの自爆テロ未遂事件を起こしている)
  - トルコ・ヒズボッラーについては、イランの支援を受けていると言われており、最近活動が活発化している兆候が見られる。また、イランの核開発問題の流動化・イスラエルによるレバノンのヒズボッラーに対する武力行使に反発する可能性も高いことから、今後もテロが継続させる可能性が高いと言える。また、自爆テロ等を実行する能力もあることから、大規模テロ事件を行う可能性も否定できない。

### 3. 企業としての対策

トルコにおける最近のテロ動向に鑑み、企業としては、下記のような点を検討・実施することが望まれる。

①トルコについては、クルド人が数多く居住する下記のトルコ南東部 12 県については、トルコ政府による PKK 掃討作戦の激化、更にそれに反発する PKK によるテロの可能性が極めて高いことから、これら地域への渡航・滞在は厳禁とすることが望まれる。

- トウンジェリ (Tunceli) 県
- エラズー (Elazığ) 県
- ビンギョル (Bingöl) 県
- ディヤルバクル (Diyarbakır) 県
- マルディン (Mardin) 県
- バトマン (Batman) 県
- ムシュ (Muş) 県
- ビトリス (Bitlis) 県
- シールト (Siirt) 県
- ヴァン (Van) 県
- ハッキヤーリ (Hakkari)
- シュルナク (Şırnak)

②最近のテロ動向においては、TAK (又は PKK) による、観光地・リゾート地でのテロが頻発している。そのため、下記のような観光地・リゾート地への渡航・滞在は極力控える。

- カップアドキア (Cappadocia)
- パムッカレ (Pamukkale)
- ペルガモン (Pergamon)
- トロイ (Troy)
- エフェソス (Effesos)
- イズミール (İzmir)
- クサダシ (Kusadasi)
- マルマリス (Marmaris)
- アンタルヤ (Antalya)
- メルスィン (Mersin)
- アダナ (Adana)
- アンタキア (Antakya)
- イシュケンデルン (İskenderun)

③その他の地域に渡航・滞在する場合には、下記のような点について、出張者・駐在員・帯同家族に注意喚起することが肝要である。

- 最近のテロの頻発に伴い、トルコ国内の主要空港等では厳戒態勢が敷かれている。そのため、予期せぬ欠航・遅延等もあることから、同国へ渡航・滞在する場合には、時間的に余裕をもったスケジュールを立てることが肝要である。
- 渡航に際しては、米系・英系・イスラエル系の航空会社・船会社は極力使用しない。

④国内の移動・宿泊に関する留意点

- 最近のテロ動向においては、バス・鉄道等が標的となることが多い。そのため、国内の中距離以上の移動においては、比較的セキュリティの高い航空便を使用する。
- 短距離の移動においては、鉄道・バス等は極力使用せず、ホテル等で手配するハイヤーや安心の出来るタクシー等を使用する。
- ホテルは米系・英系・イスラエル系はなるべく利用しないようにする。

⑤最近のテロ動向において、**標的となっている下記のような施設・場所には、なるべく近づかないようにする。**(特に、イスタンブール市内の下記のような施設・場所には極力近づかないことが肝要)

- トルコ政府機関関連施設 (司法・立法・行政機関・警察等の治安関連施設等)
- 米軍関連施設
- 欧米の大使館・総領事館等の公館
- 米系企業 (UPS 等)
- マクドナルド等の米系ファーストフード店
- 欧米の金融機関 (特に英系の HSBC)
- ユダヤ教・キリスト教関連施設
- 米系ホテル
- 与党 AKP 関連施設
- その他、欧米人等の観光客が多く集まる下記のような場所
  - 観光地の喫茶店・レストラン・観光用小型バス
  - 地域でよく知られたショッピングセンター等の大規模商業施設・映画館
  - 外国人が多数集まるディスコ・ナイトクラブ 等

⑥滞在における留意点

- 観光地において多数の人の集まる場所での滞在時間を最小限にし、ゴミ箱 (鉄製コンテナ等を含む) を出来る限り避け、周囲の状況に注意を払う。
- 積み荷が外部から窺い知れない不審車両には近づかない。
- 放置されたバッグ・袋・包み等の不審物に近づかない。
- 公園のベンチ等を利用する際には、足元や周囲に不審物がないか常に気を配る。
- 出掛ける際には、自分の行き先を知人等に告げる。
- 近くでテロ事件等が発生した場合には、家族や会社に自ら連絡し、事件現場には決して近づかない。(最近の爆弾テロにおいては、1回の小規模な爆弾で人を集め、2回目の爆弾を爆発されるような手法も使用されている)

以上

本編は、弊社が契約企業に対し不定期で情報提供している「海外安全レポート」として 2006 年 9 月 11 日作成「トルコにおけるテロ動向」から抜粋したものである。(「海外安全レポート」は弊社の「海外危機管理情報提供サービス」に基づき、不定期に提供しているもので、2005 年の実績で 58 編のレポートを提供した)

(第 107 号 2006 年 11 月発行)

## トルコで発生した主なテロ事件

(2003年4月以降)

年月日	内容
2003年4月3日	3日未明及び午前、イスタンブールの英国総領事館前及び米国系運送会社UPSの建物近くで爆弾が爆発。英国総領事館前における爆発事件では、同館の外壁の一部が破損し、向かい側にあるホテルの宿泊客1名が軽傷。
2003年4月15日	同日午後、イスタンブール市内において司法機関厚生施設内及び米国系ファーストフード店で爆弾が爆発。ファーストフード店の事件では1名が負傷。更に、同日、爆発物が他の米国系ファーストフード店で発見された。
2003年5月4日	南部のアダナで4つの爆発事件が起きた。1件は米国領事館から1ブロック先、もう1件は1,400人の米軍人が居住する空軍基地近くで起きた。犯人(1人)は特に米国を狙ったのではなく、世間の注目を集めるためだったと見られる。
2003年5月20日	アンカラの喫茶店で同日朝、爆弾が爆発し、1人が死亡、1人が負傷。女性客がトイレに入った途端、爆発が起きたことから、この女性が自爆犯の様様。
2003年6月3日	イスタンブールの高速道路で国家治安裁判所の検察官らに乗せた車列が歩道橋の下を通過した時、爆弾が爆発し、検察官2人と運転手、警護の警察官ら計6人が割れた窓ガラスで負傷。
2003年8月1日	アンカラの政府司法研修所で爆発が起き警察官16人が負傷。研修所の窓ガラスを割る被害を出した1回目の爆発でかけつけた爆発物処理班の警察官が、発見された他の鞆に仕掛けられた爆発物を処理中に2回目の爆発が起き、周りで状況をうかがっていた警察官が負傷。
2003年11月15日	同日午前9時頃、イスタンブール市内の2つのシナゴグ(ユダヤ教礼拝所)を同時に狙った自動車爆弾によるテロがあり、少なくとも30人が死亡、300人以上が負傷。ユダヤ教の安息日「シャバト」にあたり、2つのシナゴグには普段より多くのユダヤ人が礼拝に参集していたほか、通行人も多く犠牲となった。
2003年11月20日	同日午前11時頃、イスタンブールにある英国系大手銀行HSBCのトルコ本部ビルと英国総領事館付近で自爆テロと見られる連続爆発があり、32人が死亡、約450人が負傷。
2003年12月12日	イスタンブール・アンカラの裁判所近くに仕掛けられた爆弾が爆発した。また、イズミルでは警察署付近に置かれた爆弾が爆発したが、いずれの爆発でも被害はなかった。
2003年12月14日	コカエリ州で3階建ビルの正面に置かれた手製爆弾が爆発したが、被害はなかった。
2004年3月9日	同日夜、イスタンブール市内の秘密結社フリーメーソン所有の建物にあるレストランで男2人が自爆し、自爆犯1人とウエーター等2人の計3人が死亡、別の自爆犯を含む6人が負傷。
2004年5月16日	イスタンブール市内のHSBCの2つの支店前で爆弾が爆発した。その後アンカラ市内の同銀支店付近に駐車中の職員の車の下、更に別の同銀支店前でも爆発があった。いずれの爆発でも負傷者はなかった。(17日にはブレア英首相がアンカラを訪問する予定であった)
2004年5月20日	同日夕方、イスタンブールのマクドナルド店の駐車場で車に仕掛けられた爆弾が爆発した。車2台が損壊しただけで、負傷者はなかった。爆発の直前、警察に予告電話があり、警察官が現場に行き捜索したが、爆発物は発見されず、警察官が立ち去った直後に爆発した。
2004年6月14日	イスタンブールの銀行近くで小型爆弾が爆発し、1人が負傷。
2004年6月24日	イスタンブールの住宅街を走行中のバスで爆発があり、4人が死亡、15人が負傷。死者の中には小型爆弾を所持していたとみられる若い女性も含まれている。
2004年6月24日	ブッシュ米大統領が26日に宿泊を予定していたアンカラの「ヒルトンホテル」前で爆弾が爆発し、警官ら計3人が負傷。
2004年6月26日	イスタンブールの高架道路に吊るされた爆弾が爆発したが、通報を受けた警察が事前に通行禁止にしたため、負傷者は出なかった。
2004年6月28日	アンカラの中心部にある国防省関連のビルの敷地で同日夜、爆発があり窓ガラスが割れ、付近に駐車してあった車が損傷した。
2004年6月29日	イスタンブールの国際空港で同日午後零時半頃、乗客が降りた後のトルコ航空機内で爆発があり、清掃作業員3人が負傷。同機はトルコ西部イズミールから到着した国内線で、作業員が機内に残された荷物を拾い上げたところ爆発したとのこと。
2004年7月2日	東部ヴァン県で同県知事の車列近くで、車に仕掛けられた爆弾が爆発した。知事は無事だったが、3人が死亡。TAKが犯行声明。
2004年7月29日	南部メルスィン県の銀行の前で爆弾が爆発したが、負傷者はいなかった。TAKが犯行声明。

年月日	内容
2004年8月8日	東部ヴェンの空港近くにある検問所で、爆弾が爆発、クルド人反政府組織のメンバーと思われる1人が死亡、1人が負傷。
2004年8月9日	同日午後11時頃、東部ハッカリにある軍宿舎近くで時限爆弾が爆発、通りかかった兵士1人を含む2人が負傷。
2004年8月10日	同日午前1時30分頃、イスタンブール市ラーレリ地区パース・ホテル内及び同市スルタンアフメット地区ホリディスター・ホテル内の各部屋で、ほぼ同時に爆弾が爆発し、少なくとも2名が死亡、11名が負傷。また、ほぼ同時刻にイスタンブール市ビュユックチェックメジェ地区の液化石油ガス工場で、音響爆弾が爆発した。
2004年8月15日	フランクフルト行き国際線3便（トルコ航空2便・ルフトハンザ航空1便）に爆弾を仕掛けたとの脅迫があり、2便がハンガリーのブダペスト空港に緊急着陸し、3便目の旅客機はフランクフルトに着陸後にそれぞれ機内の捜索が行われたが、いずれも爆発物は発見されなかった。
2004年8月23日	アンタルヤの港で爆発があり、1人が死亡、1人が負傷。
2004年8月24日	同日深夜、南部ハタイ県ドルトヨル市中の銀行に設置されたATMが爆発し、通りかかった7人が負傷。
2004年8月30日	東部ビンギョル県で線路に仕掛けられた地雷が爆発、貨物列車が脱線した。爆発で列車の運転手が負傷した。また、シュルナク県で道路脇の地雷が爆発、兵士10人が負傷。
2004年9月15日	アンカラの警察訓練施設で爆弾が爆発したが、負傷者はいなかった。TAKが犯行声明。
2004年9月19日	同日夜、南部メルスィンで同国の人気ポップス歌手のコンサート会場近くで爆弾が爆発し、少なくとも18人が負傷。
2004年10月22日	南部メルスィン県の治安関連施設で爆弾が爆発したが、負傷者はいなかった。TAKが犯行声明。
2004年9月28日	アンカラ・イスタンブール・イズミル等4都市でHSBCの支店等を狙った同時多発爆弾事件があり、警備員1人が軽傷。爆弾は大きな音を出す音響爆弾。
2004年11月3日	イスタンブール県のカツタルにおいて爆弾が爆発したが、負傷者はいなかった。TAKが犯行声明。
2005年1月27日	同日夜、イスタンブール・バクルキョイ地区のパブで爆弾が爆発、ガラスの破片等で3人が負傷。
2005年4月15日	同日午後9時40分頃、イスタンブール市内ベイオール地区にあるHSBC銀行前で音響爆弾が爆発したが、死傷者はなかった。
2005年4月16日	同日午後8時15分頃、イスタンブール市内カドキョイ地区とサカリヤ県にある極右政党事務所前で音響爆弾が爆発し、トルコ人2名が負傷。
2005年4月30日	西部クサダシでケマル初代大統領の像の近くで爆弾が爆発し、警官1人が死亡、4人が負傷。TAKが犯行声明。
2005年6月3日	南部ハタイ県ハッサの携帯電話の修理店で爆発があり、店員1人が負傷。TAKが犯行声明。
2005年6月5日	トルコのトゥンジェリ県の村でクルド武装グループがパトロール中のトルコ軍の小隊を銃撃、兵士4人が死亡、1人が負傷。
2005年6月21日	西部コジャエリ県ゲブゼの工場で爆弾が爆発し、20人が負傷。TAKが犯行声明。
2005年6月28日	イスタンブール市内ベイオロ地区にあるフラッシュ・テレビ局前及びアンカラ市内チャンカヤ区クルトゥルシュ地区にある首相府民営化行政局ビル前において数件の音響爆弾が爆発したが、負傷者はなかった。
2005年7月1日	同日午前10時頃、アンカラ市内チャンカヤ区ズライ地区に所在する法務省ビルに爆弾を持った自爆犯が入ろうとして失敗し、通りに走り出したところを治安部隊により射殺された。
2005年7月1日	同日夜、東部ディヤルバクル県において、不審物を調査していた警察官3人が負傷。
2005年7月2日	東部ビンギョル県で線路に仕掛けられた爆弾が爆発し、客車・貨車等15両編成（Elazig発Tatvan行）のうち3両が転覆し、鉄道従業員6人が死亡。また、この爆発現場から500mはなれた場所でも、線路に仕掛けられた爆弾が発見され、処理された。更に、最初の爆発の救援に向かっていた別の列車も現場から約1kmのところまで線路に仕掛けられた爆弾で爆破された。
2005年7月6日	西部クサダシで観光客の乗った小型バスの近くで爆発があり、英国人1人・アイルランド人1人を含む少なくとも5人が死亡。
2005年7月10日	同日午後2時30分頃、イズミール県チェスメ市（エーゲ海沿いのリゾート地）中心部のチェシュメ広場にある銀行付近のゴミ箱で爆弾が爆発し、少なくとも外国人2人を含む10数人が負傷。TAKが犯行声明。

年月日	内容
2005年7月16日	西部クサダシで海水浴場に向かっていた小型バスが爆発し、外国人3人を含む4人が死亡、14人が負傷。TAKが犯行声明。
2005年7月23日	イスタンブールの喫茶店で同日夜、爆弾が爆発し、オランダ人と同店で働くトルコ人の少なくとも2人が負傷。
2005年8月2日	同日午後2時頃、南部アンタリヤ旧市街カレ・カプスの時計台前のアッタロス像側に設置されているゴミ箱で爆弾が爆発した。また、同爆発から数分後、同市内ドーウ・ガラージュ地区に所在するパハラッチラル市場前に設置されているゴミ箱でも爆弾が爆発し、少なくとも外国人1人を含む6人が負傷。
2005年8月4日	同日午前0時10分頃、イスタンブール県ペンディック市の住宅街で爆発が発生し、走行中の車に乗っていた母娘2人が死亡、4人が負傷。
2005年8月5日	同日未明、イラク国境に近いシムディンリで、クルド武装グループがロケット弾等で警察署を襲撃、トルコ兵5人が死亡、6人が負傷。
2005年9月3日	イスタンブール近郊で走行中の車が爆発し、2人が死亡、少なくとも5人が負傷。
2005年9月18日	同日夜、アンタリヤ県マナブガット市近郊において、アダナ県からアンタリヤ県に向かっていた旅客バスが爆発し、少なくとも2人が死亡、10人が負傷。
2005年9月19日	同日午前9時30分頃、イスタンブール市内タクシム地区に所在するゲジヨ公園のゴミ箱で音響爆弾と見られる爆弾が爆発し、1人が負傷。
2005年10月4日	同日夜、イスタンブール市内チャーラヤン地区にあるオラルビジネスセンターの地下で爆弾が爆発し、1人が死亡、7人が負傷。
2005年10月6日	同日未明、イスタンブール市内カドキョイ地区エレンキョイ付近のビルで音響爆弾が爆発。
2005年10月11日	同日深夜、イスタンブール市内エティレル地区スナ通りに所在するスポーツクラブに火炎瓶が投げ込まれ、火災が発生。
2005年10月14日	同日夜、アンカラ市内中心部のマルテペ地区にある公共立体駐車場の1階で駐車していた車両が爆発し、少なくとも車両20台が損傷、近くの建物の窓ガラスが割れる被害が出た。
2005年10月15日	同日午前、イスタンブール市内カドキョイ地区にある銀行前で小包爆弾が発見され、治安当局が不発処理。
2005年10月15日	同日午後7時半頃、トルコのイスタンブール市内マスラック地区の主要幹線道路沿いの軍施設に隣接したガソリンスタンドで、駐車していた車両が爆発し、少なくとも5人が負傷。TAKが犯行声明。
2005年11月2日	イラク国境近くのセムディンリでクルド武装グループによる自動車爆弾が爆発し、兵士4人、警察官3人、民間人16人の計23人が負傷。
2005年11月9日	イラク国境近くのセムディンリで爆弾が爆発し、1人が死亡。
2005年11月18日	イスタンブールにある閉鎖中のテーマパークの近くで爆発が起き、1人が死亡、11人が負傷。
2005年11月22日	マルディン県ヌサイビンの学校で男が銃を乱射し、教師1人が死亡、生徒2人が負傷。
2006年1月13日	シュルナク県でパトロールをしていたトルコ治安当局が道路に仕掛けられていたC4爆弾を発見、処理。
2006年1月30日	南部アダナ中心部の4階建てビル内ホールで爆弾が爆発し、トルコ人5人が負傷。
2006年2月5日	北部の黒海沿岸トラブゾンでカトリック教会のイタリア人神父が何者かに射殺された。殺されたのは19世紀に建立されたサンタ・マリア教会のアンドレア・サントロ神父。
2006年2月9日	イスタンブールのインターネットカフェで爆弾が爆発し、1人が死亡、警官7人と子供1人を含む16人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年2月13日	イスタンブールのヨーロッパ側の住宅地の一角にあるスーパーで爆発があり、1人が死亡、5人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年2月21日	南部メルスィン県のAKP事務所前で爆弾が爆発したが、負傷者はいなかった。TAKが犯行声明。
2006年3月4日	イズミールの警察署で爆弾が爆発し、1人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年3月5日	イスタンブール市内ハルシオグル地区で、デモ中のテロ組織の支援者約25人のグループが乗合バスを止めた。バスの運転手がドアを開け、乗客を降ろした直後、デモ隊は火炎瓶をバスに投げつけ、バスは炎上した。
2006年3月9日	同日午前9時頃、ヴァン市の政府系ビル・ショッピングセンター等が所在する中心部で、自爆テロによるものとみられる爆発事件が発生し、3人が死亡、19人が負傷。
2006年3月15日	シリア国境近くのディヤルバクルにあるHSBCの支店の外で爆発があり、2人が負傷。
2006年3月28日	東部ムシュ県でトルコ治安部隊による反政府勢力掃討作戦が行われ、PKK(クルド労働者党)戦闘員14人が殺害され、3月28日、これら戦闘員の葬儀に際し、南東部のディヤルバクル



年月日	内容
	県、バトマン県、シールト県及び南部のアダナ県において、数千人規模の反政府抗議デモが行われ、暴徒化した一部のデモ参加者は、商店、銀行、警察署、診療所及び多数の車両に投石、放火した。
2006年3月31日	イスタンブール旧市街のファティフ地区にあるバス停付近でゴミ箱に仕掛けられた爆弾が爆発し、少なくとも1人が死亡、11人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年3月31日	トルコ中部マラティヤ県の警察署で爆弾が爆発したが、負傷者はいなかった。TAKが犯行声明。
2006年4月2日	イスタンブールでバスに爆発物が投げ付けられて炎上、バスは歩道に乗り上げ、近くにいる通行人ら3人が死亡。
2006年4月5日	イスタンブール郊外にある公正発展党（AKP）の事務所で爆弾が爆発し、2人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年4月7日	黒海沿岸のオルドゥ県のモスク前で女が自爆し、爆弾を所持していた共犯者と思われる別の女1人とモスクを訪れていた男性信者1人の計2人が負傷。
2006年4月7日	東部ディヤルバクル県で政府の車が通りかかった際、軍本部に近い道路上に置かれた小型の手製爆弾が爆発し、11歳の子供1人を含む2人が負傷。
2006年4月8日	同日午後7時頃、イスタンブール市新市街中心部のタクシム広場に所在するファーストフード店で、銃を所持した2人組の男が店員1人及び客1人の計2人を人質に取り、同店内に一時立て籠もる事件が発生した。犯人は現地治安当局の説得に応じて、約30分後に投降し、人質は全員無事解放された。
2006年4月10日	同日午前8時35分頃、イスタンブール市バクルキョイ地区からベイオール地区（新市街中心部）に向かう裁判官及び検察官（合計37人が乗車）を輸送中の通勤バス（路線バスを利用）の椅子の下に爆弾が仕掛けられているのを運転手が発見し、警察により不発処理された。TAKが犯行声明。
2006年4月16日	イスタンブール郊外で道路脇のゴミ箱に仕掛けられた爆弾が爆発、市民ら少なくとも31人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年4月21日	同日午前7時30分頃、西部イズミール市イェシルユルト通りで、ゴミ箱に仕掛けられていた爆弾が爆発し、建物の窓ガラス等が破損した。
2006年5月3日	東部ハッカリ県で下校途中の児童が乗っている小型バスの近くで爆弾が爆発、子供11人、兵士5人、通行人1人の計17人が負傷。
2006年5月11日	イスタンブールにあるCumhuriyet新聞社の庭に手榴弾が投げ込まれ、車両と警備員詰め所の窓ガラスが割れる被害が出た。
2006年5月13日	東部ベルデレールの駐車場に仕掛けられていた時限式爆弾が爆発、6歳、11歳、12歳の少年3人が死亡、もう1人の少年が負傷。
2006年5月17日	アンカラで、最高行政裁判所に押し入った男が判事等を銃撃し、1人を殺害、4人を負傷させた。
2006年5月24日	同日午後3時半頃、イスタンブール郊外にあるアタチュルク国際空港の貨物部門で大規模な火災が発生し、少なくとも3人が負傷。
2006年6月1日	イスタンブールのアジア側にあるウシュクダル地区で、5階建てのビルの地下で爆発が起き、爆発があり、多数の負傷者が出た。
2006年6月3日	南部メルスインのショッピングセンターの外で小型爆弾が爆発、少なくとも14人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年6月5日	西部サカリヤの軍基地で弾薬庫が爆発、1人が死亡、2人が負傷。
2006年6月13日	南部タルススの文房具店外に置かれた手榴弾の入った包みが爆発したが、被害はなかった。この包みを持った少年が政府建物に向かっていたが、途中で気が変わったように文房具店前に包みを置いたとのこと。
2006年6月15日	同日午前10時20分頃、イスタンブール市の旧市街中心部エミノニュ地区のバスターミナルに設置されたゴミ箱（鉄製コンテナ）が爆発し、4人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年6月17日	同日夜、東部ムシュ県の線路で爆弾が爆発し、貨物列車が脱線し、貨車8台が損傷した。
2006年6月21日	トルコ警察はプラスチック爆弾約5.7kgを所持していたPKKメンバー2人を逮捕した。
2006年6月25日	南部アンタルヤのレストランで爆発があり、トルコ人2人とノルウェー人、ウクライナ人の計4人が死亡、28人が負傷。
2006年8月4日	南部アダナの銀行の前で6分間に2つの爆弾が爆発し、15人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年8月14日	同日午後4時半頃、イスタンブールの歴史地区の公園で音響爆弾が爆発し、女性2人と子供1人の3人が負傷。

年月日	内容
2006年8月19日	同日夜、東部アール県イランからの天然ガスを運ぶパイプラインが爆発し、周辺へのガス供給が一時停止した。
2006年8月25日	南部アダナで2つの爆弾が爆発し、4人が負傷。
2006年8月27日	イスタンブール・マルマリス・アンタルヤで計5件の爆発があり、少なくとも3人が死亡、65人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年8月30日	同日午後1時頃、南部メルスィン県でゴミ箱に仕掛けられていた爆弾が爆発し、1人が負傷。TAKが犯行声明。
2006年9月3日	ヴァン県のカフェで同日午後9時頃、爆弾が爆発し警官1人を含む2人が死亡、9人が負傷。
2006年9月5日	イズミールの公正発展党（AKP）事務所近くのゴミ箱に置かれた爆弾が爆発したが、負傷者はいなかった。